

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	3-2-3		事業名	誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業
担当	建設局土木部道路課 松浦 TEL211-2617			
全 体 計 画				
事業内容	<p>高齢者や障がい者など誰もが安心して社会参加でき、快適に暮らせる生活環境を確保するため、地域の拠点をはじめ身近な生活圏を含め、以下の事業を実施することにより、安全で歩きやすい歩行空間のネットワークを創出する。</p> <p>・駅及び公共施設周辺の歩道バリアフリー化 誰もが歩きやすい歩道を目指して、段差解消や勾配の緩和、視覚障がい者誘導用ブロックの設置などを行う。</p> <p>・地域主体の歩行空間整備エリアの形成 町内会やまちづくり協議会、スクールゾーン実行委員会、まちづくりセンターと十分に連携し、地域に暮らす人の視点でハードとソフトを組み合わせた歩行環境整備を進める。</p>	＜年度別の事業内容＞		
		<p>(平成19年度) 歩道のバリアフリー化、「あんしん歩行エリア」の整備</p> <p>(平成20年度) 歩道のバリアフリー化、「あんしん歩行エリア」の整備</p> <p>(平成21年度) 歩道のバリアフリー化、「あんしん歩行エリア」の整備</p> <p>(平成22年度) 歩道のバリアフリー化、「あんしん歩行エリア」の整備</p>		
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<p>(歩道のバリアフリー化)</p> <p>歩道バリアフリー化 9路線、延長2.7km</p> <p>(「あんしん歩行エリア」の整備) 8エリア</p> <p>歩車共存道路整備 700m 交差点改良8箇所 路上駐車対策の実施、自転車マナー啓発チラシの配布</p>		<p>(歩道のバリアフリー化)</p> <p>歩道バリアフリー化 7路線、延長1.4km</p> <p>(「あんしん歩行エリア」の整備) 4エリア</p> <p>交差点改良3箇所 路上駐車対策の実施、自転車マナー啓発チラシの配布</p>	
事業規模	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(決算)	
	<p>(歩道のバリアフリー化)</p> <p>歩道バリアフリー化 21路線、延長7.8km</p> <p>(「あんしん歩行エリア」の整備) 5エリア</p> <p>交差点改良3箇所 路上駐車対策の実施、自転車マナー啓発チラシの配布</p>		<p>(歩道のバリアフリー化)</p> <p>歩道バリアフリー化 48路線、延長15.0km</p> <p>(「あんしん歩行エリア」の整備) 5エリア</p> <p>路上駐車対策の実施、自転車マナー啓発チラシの配布</p>	
事業件数等				

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	3-2-3			事業名	誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業																					
達成目標の状況																										
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (実績)	22年度末 (目標)																				
重点整備地区バリアフリー化率 (当初指定された重点整備地区 3地区)	71%	82%	88%	90%	94%	100%																				
あんしん歩行エリア等の形成数	9エリア	9エリア	10エリア	10エリア	10エリア	12エリア																				
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)																										
<p>■市民との連携、市民参加 「あんしん歩行エリア」の整備にあたり、有識者、市民、関係機関からなる委員会を組織しており、地域住民によるまち歩きやヒヤリマップの作成などを踏まえて、整備計画を策定している。現在は、地区の代表者も含めて「連絡協議会」として、対策の実施状況とその効果や、地域での取り組みの情報共有を行っている。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力]交通事業者(JR・バス)や警察が実施するバリアフリー化(駅、バス、信号機等)との相乗効果が期待できる。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 国道管理者やJR、警察等とバリアフリー化に関する情報の共有化を図っている。また事業の進捗状況を札幌市のホームページで公開している。</p>																										
評価(成果)			課題																							
<p>特定経路における歩道のバリアフリー化は、平成22年度末までにほぼ完了し、高齢者や障がい者が安心・安全に歩行できる空間を拡充することができたが、他事業との一体整備を行う路線等では一部未施工箇所があり、バリアフリー化率は約94%となった。</p> <p>また、平成20年度末に新たに策定した「新・札幌市バリアフリー基本構想」に基づく道路整備計画のアクションプランとして、「道路特定事業計画」の策定を行った。</p> <p>「あんしん歩行エリア」の推進により、ハード面での対策の他、地域住民によるまち歩きやワークショップを通して地域の危険な箇所を示した「ヒヤリハットマップ」を作成したほか、路上駐車対策の実施、自転車マナー啓発チラシを配布するなど、交通安全への意識向上が図られた。</p>			<p>平成20年度に策定された「新・札幌市バリアフリー基本構想」では、重点整備地区数がこれまでの3地区から53地区に拡大され、これに伴い整備すべき生活関連経路も大幅に延長された。</p> <p>高齢化が進展する札幌の将来においては、誰もが安全で歩きやすい歩道空間のネットワークを確保することがこれまで以上に重要となるため、平成22年度からは予算額を倍増した。</p> <p>生活関連経路における歩道のバリアフリー化等を極力早期に完了させるためには、今後も継続的な事業費の確保が重要となる。</p>																							
今後の事業の予定・方向																										
<p>歩道のバリアフリー化については、これまで平成15年度当初に指定された重点整備地区3地区について、平成22年の事業完了を目指して整備を進めてきた。しかし、平成20年度に策定された「新・札幌市バリアフリー基本構想」では、重点整備地区が53地区に拡大され、平成22年度に検討した「道路特定事業計画」では、経路のネットワーク化を早期に実現し事業効果を十分に発揮できるよう、整備は重点的かつ集中的に進めることとした。</p> <p>また、「あんしん歩行エリア」の整備については、現社会資本重点整備計画は平成15年度～19年度となっているが、歩行環境の整備・改善についての高い国民ニーズに鑑み、警察庁・国土交通省から、次期についても引き続き同様の取り組みを進める旨の通知が発せられ、平成20年度は当初から継続している4地区に新たなエリアを1地区追加して計5地区での指定を受けた。</p>																										
<p>【平成20年度指定エリア】</p> <table border="0"> <tr> <td>札幌駅大通地区</td> <td>完了</td> <td>手稲駅周辺地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>麻生地区</td> <td>完了</td> <td>桑園地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>新琴似地区</td> <td>完了</td> <td>南平岸地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>西野発寒地区</td> <td>完了</td> <td>厚別中央地区</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>南郷通地区</td> <td>完了</td> <td>清田地区</td> <td>新規</td> </tr> </table>							札幌駅大通地区	完了	手稲駅周辺地区	継続	麻生地区	完了	桑園地区	継続	新琴似地区	完了	南平岸地区	継続	西野発寒地区	完了	厚別中央地区	継続	南郷通地区	完了	清田地区	新規
札幌駅大通地区	完了	手稲駅周辺地区	継続																							
麻生地区	完了	桑園地区	継続																							
新琴似地区	完了	南平岸地区	継続																							
西野発寒地区	完了	厚別中央地区	継続																							
南郷通地区	完了	清田地区	新規																							

平成23年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		3-2-3		事業名		誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業							
事業費の推移													
項目		19年度		20年度		21年度		22年度		計			
計画	事業費		1,274,000		800,000		800,000		800,000		3,674,000		
	財源内訳	国・道支出金		465,000		400,000		400,000		400,000		1,665,000	
		市の債		434,000		180,000		180,000		180,000		974,000	
		その他の		0		0		0		0		0	
一般財源		375,000		220,000		220,000		220,000		1,035,000			
予算	事業費		1,274,000		1,094,000		1,141,000		1,645,000		5,154,000		
	財源内訳	国・道支出金		465,000		430,000		474,000		629,000		1,998,000	
		市の債		434,000		404,000		430,000		891,000		2,159,000	
		その他の		0		0		0		24,000		24,000	
一般財源		375,000		260,000		237,000		101,000		973,000			
実績	事業費		1,294,394		1,191,306		990,682		1,790,810		5,267,192		
	財源内訳	国・道支出金		465,000		430,000		474,000		642,500		2,011,500	
		市の債		538,067		479,200		424,000		924,000		2,365,267	
		その他の		0		0		0		24,000		24,000	
一般財源		291,327		282,106		92,682		200,310		866,425			
事業費の進捗率			(H19実績+H20実績+H21実績+H22実績) / (計画事業費)							143.4%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)													
《全体》													
[19年度]													
[20年度]													
[21年度]													
[22年度]													